

無償資金協力事業 (JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
熱帯医学研究所拡充計画			87	14.79			96.4 (F/U)
(1) 本体：熱帯医学の役割を充実させるため熱帯医学研究所を設立した。 (2) フォローアップ協 力：施設の老朽化に伴う修理を行うための調査を実施する。							

シンガポール

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計	
わが国の ODA	無償資金協力 (億円)	0	31.17	
	有償資金協力 (億円)	0	127.40	
JICAの 技術協力実績	技術協力経費 (億円)	3.02	208.36	
	形態別	研修員受入 (人)	173 (新規)+0 (継続)	4,488
		専門家派遣 (人)	25 (新規)+3 (継続)	1,092
		調査団派遣 (人)	14 (新規)+0 (継続)	684
		協力隊派遣 (人)	0 (新規)+0 (継続)	0
		機材供与 (100万円)	2	3,539
	単独機材供与 (100万円)	0	74	
	開発調査 (件)	0	15	
プロジェクト方式技術協力 (件)	0	8		

わが国の対シンガポールODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

技術協力 9.29 (100%)

スリ・ランカ

(予算年度)

		1996年度	1996年度までの累計
わが国の ODA	無償資金協力	(億円) 62.37	1,401.96
	有償資金協力	(億円) 384.38	4,270.13
技術協力経費		(億円) 27.28	318.92
JICAの 技術協力実績	形態別		
	研修員受入	(人) 231(新規)+38(継続)	3,755
	専門家派遣	(人) 42(新規)+36(継続)	757
	調査団派遣	(人) 172(新規)+7(継続)	2,078
	協力隊派遣	(人) 15(新規)+52(継続)	428
	機材供与	(100万円) 276	4,774
	単独機材供与	(100万円) 4.34	515.60
開発調査	(件) 7	38	
プロジェクト方式技術協力	(件) 6	21	

わが国の対スリ・ランカODA (1996年暦年支出純額ベース、単位：億円)

無償資金協力 57.01 (30.1%)	技術協力 37.16 (19.6%)	政府貸付等 95.10 (50.2%)
----------------------------	--------------------------	---------------------------

● 計画・行政分野 ●

開発調査事業

プロジェクト名	概要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
南部地域総合開発計画	スリ・ランカ南部地域（南部州ならびにウヴァ州、サバラガムワ州および東部州の一部）を対象とした、2015年を目標年次とする地域総合開発計画策定のマスタープラン調査を実施する。1996年度は第2年次調査を実施し、優先・緊急プロジェクト・プログラムの概要書を作成するとともに、マスタープラン実施のための投資促進策・行財政制度などを検討し、これらを最終報告書案に取りまとめ、現地ワークショップで説明・協議を行った。スリ・ランカ側の最終コメントを踏まえて最終報告書を国内作業で作成し、先方に提出した。	大蔵計画民族問題国家統一省	日本工営(株) システム科学 コンサルタン ツ(株) (財)国際開発セ ンター

● 公共・公益事業分野 ●

プロジェクト方式技術協力事業

プロジェクト名 期 間	各種チームの派遣		人 数 ・ 経 費 実 績			
	年 度	形 態		専 門 家 派 遣 (人)	カ ウ ン ター パ ー 受 入 (人)	機 材 供 与 (千 円)
建設機械訓練センター (当初R/D協力期間) 96.10.1~2000.9.30	93	事前調査	95年度までの 累 計	0	0	0
	93	第1次長期調査	96年度	新規	6	2
	95	第2次長期調査				
	95	実施協議	継続	0	0	4,347

(要請背景)
スリ・ランカにおいては、第14次公共投資5カ年計画(1992~1996)のもと、電力、通信、運輸などの社会基盤の強化・拡充を推進しており、建設機械を約6000台以上保有するに至った。しかしながら、建設機械の整備技術は系統的に訓練されておらず、知識・技術の不足により、その正常稼働率は40%程度にすぎない。また、同国においては建設機械オペレーター訓練施設はあるが、管理者・整備工の訓練を組織的に行う訓練施設を有していないため、同分野の人的資源の需要に計画的に応えることができていない。このような状況のもと、スリ・ランカ政府は、社会基盤整備計画を推進するにあたり、建設機械の円滑な運用・保守管理に携わる人材育成を目的とした訓練センターを計画し、同センター施設建設の無償資金協力および人材育成のための技術協力をわが国に要請してきた。

(目標と期待される成果)
建設機械の運用・保守管理を行う技術者の養成を目的とする。

(協力活動内容)
建設機械整備の訓練コース(管理者コース、監督者コース、メカニックⅠコース、メカニックⅡコース、在庫管理コース、記録管理コース)に関して、研修教材の整備、訓練コースの確立および訓練コース実施を行う。

開発調査事業

プロジェクト名	概 要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
全国電気通信網整備計画	スリ・ランカ政府の要請に基づき、同国全土を対象に電気通信整備のマスタープランを策定するとともに、優先プロジェクトのフィービリティ調査を実施する。1996年度は、最終報告書案に対する先方政府からのコメントを受け、所要の修正を行ったのち、最終報告書に取りまとめた。	スリ・ランカ テレコム	日本情報通信 コンサルティング㈱ (株)海外通信・ 放送コンサルティング協力
全国橋梁改修計画	スリ・ランカ政府の要請に基づき、全国を対象とした橋梁改修計画のマスタープラン(目標年次:2010年)を策定するとともに、橋梁維持補修ガイドラインを作成する。1996年度は、全調査結果を取りまとめた最終報告書案を作成し、スリ・ランカ政府に提出した。また、同報告書案に対する同国政府からのコメントを受けて最終報告書を作成・提出し、全調査工程を終了した。	道路開発公社	(株)日本構造橋 梁研究所

新コロポ港開発計画	スリ・ランカ政府の要請に基づき、コロポ港北側における新港建設のマスタープラン（目標年次：2010年）を策定するとともに、そのなかから選定された優先プロジェクトのフィージビリティ調査を行う。1996年度は、95年度に引き続き本格調査を実施し、第3次現地調査および第2次国内作業を行い、最終報告書案の作成・提出を経て、スリ・ランカ政府のコメントを受けて、最終報告書を作成した。	スリ・ランカ港湾庁	(財)国際臨海開発研究センター (株)日本港湾コンサルタント (財)国際開発センター
-----------	--	-----------	--

無償資金協力事業 (JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
第3次低所得者住宅改善計画	国家住宅開発庁		96	6.74	96.12.2		
<p>スリ・ランカでは、政府の財政難のため住宅部門に十分な公共投資ができず、住宅問題が大きな社会問題となっている。そこで、プランテーション従業者を対象とした12万5000戸の住宅供給を計画していることから、必要な屋根用亜鉛鉄板を購入する。</p>							
マハヴェリ道路橋梁建設計画	灌漑電力エネルギー省灌漑局	(株)オリエンタル・コンサルタンツ	95	22.00	95.5.17		97.2 (実)
<p>スリ・ランカ中央部のミニベ地区では、交通の利便が悪く、農業活動が停滞し、経済的状況も悪化している。このため、橋梁および道路の建設を行い、交通の利便性の改善を図る。</p>							
ルーパワーヒニ放送局改善計画	ルーパワーヒニ放送公社	(株)NHKアイテック	96	13.59	97.3.11	96.11 (本) 97.1 (報)	
<p>スリ・ランカ国内唯一の国内向けテレビ放送局であるルーパワーヒニ放送局の放送機材が老朽化し、放送波停止の恐れもあることから、老朽化・不足している機材〔ビドルトラガラ基幹放送所、プリムローズヒル中継放送所などの中継・放送用機材（テレビ中継放送機、アンテナ設備、送信機等）およびスタジオ関係機材（VTR装置、カメラ、中継車等）〕を購入する。</p>							

● 農林・水産分野 ●

プロジェクト方式技術協力事業

プロジェクト名 期 間	各種チームの派遣		人 数 ・ 経 費 実 績				
	年 度	形 態		専 門 家 派 遣 (人)	カ ウ ン ター パ ー ト 受 入 (人)	機 材 供 与 (千 円)	
植物検疫所計画 (当初R/D協力期間) 94.7.1～99.6.30	93	事前調査 実施協議 計画打合せ 巡回指導	95年度までの 累 計		9	6	22,077
	93		96年度	新規	8	4	30,350
	94				継続	5	
	96						
<p>〈要請背景〉</p> <p>スリ・ランカの経済は農業に基盤を置き、スリ・ランカ政府は、農業政策として米、砂糖、園芸作物などの増産・多様化と農産物の輸出の拡大による外貨収入増大を重要政策として位置づけている。輸出増加のための新品種種苗の輸入には、植物資源の検疫が必要であるが、現在の植物検疫体制は十分に整備されておらず、他方、過去に病菌の侵入により重要作物に致命的な損害を受けた経験を有する。これらのことから、検疫体制の確立が急務となっており、スリ・ランカ政府は、①効果的な植物検疫体制の確立、②適切な検査および処理技術の開発のため、わが国に対して植物検疫技術の移転と検疫官の育成に関する技術協力を要請してきた。</p> <p>〈目標と期待される成果〉</p> <p>国立植物検疫所における病理・害虫検査と消毒処理の分野での活動が円滑に行われる。</p> <p>〈協力活動内容〉</p> <p>(1) 植物検疫上の病害に関する検査技術の改善 (2) 害虫の同定・ミバエ増殖技術の改善 (3) くん蒸処理技術の改善と選定された消毒処理技術の開発 (4) 植物検疫関係職員研修の実施</p>							
ガンパハ農業普及改善計 画 (当初R/D協力期間) 94.7.1～99.6.30	92	事前調査 長期調査 実施協議 計画打合せ 実施設計 巡回指導	95年度までの 累 計		17	7	49,027
	93		96年度	新規	7	4	24,044
	93				継続	6	
	94						
	94						
<p>〈要請背景〉</p> <p>(1) スリ・ランカの農業人口は労働人口の51.7% (1990年) を占めるが、農業のGDPに占める割合は26% (90年) 程度にすぎず、その生産性は低い。そこで同国政府は、地域開発の重要性に焦点を当て、79年から農村総合開発事業 (IRDP) に着手し、以後18の県で事業を展開している。 (2) 首都コロomboの北に隣接するガンパハ県は、面積1399km²、人口174万人 (91年) で湿潤地域に属し、農用地が総面積の57%を占めており、その生産は飯米用の水稻と伝統的な換金作物であるココナッツを中心に行われているが、生産性は低い。 (3) このような状況から、同国政府はわが国に対し、ガンパハ県農村総合開発計画の開発調査を要請し、わが国はこれを受けて87年にマスタープランを策定した。そして、農業生産振興モデルの一環として、わが国は89年の基本設計調査を経て2期にわたって無償資金協力を行った。そのなかでワルピタ種苗センター、アンベプッサ農業研修センター (改修) (第1期)、モレナ農業技術移転センター (第2期) などが整備された。 (4) さらに、同国政府は(3)の事業推進の一環として、農業生産の多様化により農業生産性向上および農家収入の増大を図るべく、90年7月、わが国に対し、プロジェクト方式による技術協力を要請してきた。</p> <p>〈目標と期待される成果〉</p> <p>ガンパハ県のココナッツ畑において、土地の有効利用、農業生産の多様化が図られる。</p>							

〈協力活動内容〉

(1) ココナツ畑における作物生産体系の改善：栽培技術の改善、新規作物の導入試験、水管理技術の改善、実証展示など (2) 普及方法の改善：ボトムアップ方式の普及活動方法の導入、モデル生産集団の育成、普及活動の評価など (3) 教材開発：研修、普及に必要な教材の作成 (4) 研修の実施：普及員、村落行政官、生産集団リーダーなどの研修

開発調査事業

プロジェクト名	概要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
南部灌漑排水システムリハビリティ計画	スリ・ランカ政府の要請に基づき、農業生産の増加を目的として、同国南部に位置するハンバントタ、カルタラ、マタラ県の既存灌漑排水システム（受益面積計約2万ha）の補修・改修計画に関するフィージビリティ調査を実施する。1996年度は、最終報告書案をスリ・ランカ政府に説明し、協議するとともに、協議結果を踏まえて最終報告書を取りまとめ、先方政府に提出した。	灌漑電力エネルギー省	中央開発(株) 朝日航洋(株)

無償資金協力事業 (JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
ペラデニア大学農学部教育機材整備計画	教育・高等教育省	海外貨物検査(株)	96	6.55	97.2.12	96.8 (本)	
スリ・ランカの基本食糧作物の自給率向上、農産品加工産業の発展を図るため、同大学農学部の教育用機材を購入する。							
食糧増産援助	農業開発研究省	(財)日本国際協力システム	96	14.00	96.6.18		96.6 (実)
スリ・ランカ政府は、全国の稲作面積の約60%と、北東部乾燥地域のトウモロコシ、タマネギ作付面積のそれぞれ約80%を対象とした食糧増産計画を策定しているが、本件はこの計画を支援し、必要な肥料、農機の調達を図るものである。							

● 鋳工業分野 ●

プロジェクト方式技術協力事業

プロジェクト名 期 間	各種チームの派遣		人 数 ・ 経 費 実 績				
	年 度	形 態		専門家派遣 (人)	カウンターパ ート受入(人)	機材供与(千円)	
鋳造技術向上計画 (当初R/D協力期間) 95.12.1~2000.11.30	93	事前調査	95年度までの 累 計	6	3	6,529	
	94	長期調査					
	95	実施協議	96年度	新規	2	1	87,212
	96	計画打合せ		継続	4	3	
〈要請背景〉 スリ・ランカは、国内産業基盤の立て直しのため、市場経済導入政策のもとに、諸政策を実施しているが、基幹産業（工業分野において）である金属加工の振興が、社会・経済基盤の活性化に大きく寄与することが期待されている。その一環として同国政府は、金属加工技術の向上のために「金属加工センター」の設立を計画し、1994年2月にわが国に対してプロジェクト方式技術協力を要請してきた。その後、日本側の事前調査結果を踏まえて、95年1月に鋳造・メッキ両分野のプロジェクト方式技術協力を工業開発省工業開発委員会（IDB）のサイトで実施する旨再要請がなされた。							
〈目標と期待される成果〉 目標：IDBの鋳造に関する基礎的な技術サービス（主として研修サービス）により、産業界の技術者の技術が向上する。 成果：(1) IDBのカウンターパートが鋳造分野（木型、造型、溶解）の基礎的な技術力を身につける。 (2) IDBのワークショップが鋳造技術の移転ができるように維持・管理される。 (3) 鋳造分野（木型、造型、溶解）に関する基礎的な技術を身につけた、産業界の技術者が育成される。 (4) IDBにより産業界の技術者向けに、鋳造分野の新技術が紹介される。							
〈協力活動内容〉 IDBの施設（本部および鋳造施設のあるカッベッタ）に機材などの設備を設置し、スリ・ランカ側のカウンターパートに鋳造技術を移転し、その技術を研修コースおよびセミナーによって産業界に移転する。							
繊維製品品質向上計画 (当初R/D協力期間) 96.4.1~2001.3.31	94	事前調査	95年度までの 累 計	5	2	5,000	
	95	長期調査					
	95	実施協議	96年度	新規	6	3	65,336
				継続	0	0	
〈要請背景〉 スリ・ランカにおける繊維産業は近年著しい発展を遂げていて、縫製部門を中心に、最大の輸出産業となっているが、縫製品輸出に絡む貿易構造の将来的変化によってスリ・ランカが不利な立場に立つことが予想されるため、将来に備えて価格・品質面での競争力の向上を図る必要がある。一方、生地製造の分野はまだ十分な発展を遂げておらず、縫製品の原材料（生地）の大半を輸入に頼っているために、今後の生地の国産化、それも縫製品の競争力の向上にマッチした品質・価格の商品の生産が望まれている。 スリ・ランカ政府は、繊維研修・サービスセンター（TT&SC）の技術力向上を図ることで、民間の繊維産業部門、特に生地製造部門の技術振興を図るために、1993年、同センターに対するプロジェクト方式技術協力をわが国に要請してきた。わが国の事前調査結果を踏まえ、品質保証、アパレルを技術協力の範囲に含め、縫製分野の職業訓練センターである繊維産業研修所（CITI）も実施機関に							

含めた再要請が95年1月に同国よりなされた。

〈目標と期待される成果〉

目標：TT&SCおよびCITIによる繊維・アパレル業界に対する品質向上を目的とした技術支援体制が確立される。

成果：(1) TT&SCが生地の検査基準書などを、CITIがアパレルの縫製基準書などを作成し、実際に活用できるようになる。(2) 生地、アパレルの品質保証(検査)および製造技術つまり織物技術、染色整理加工技術、アパレル技術に関する研修コースがレベルアップする。(3) TT&SCが生地・アパレル業界への試験サービス活動を国際レベルの基準に対応できるまでに強化できるようになる。

〈協力活動内容〉

TT&SCおよびCITIのカウンターパートに対して、日本人専門家が、品質保証、織物技術、染色整理加工、アパレル技術、試験技術の技術移転を実施、同時にスリ・ランカ側は、産業界に対し、研修コース、試験サービスコースを実施する。

開発調査事業

プロジェクト名	概 要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
工業分野(メッキ産業)振興開発計画アフターケア	スリ・ランカのメッキ製造技術の向上と、メッキ廃水処理設備の普及のための計画策定を行う。1996年度は、本格調査を開始し、3回にわたる現地調査を実施してスリ・ランカ側カウンターパートへの技術移転を図るとともに、メッキ・廃水処理技術の向上計画を提言した最終報告書を作成した。	産業開発省工業開発委員会	ユニコインターナショナル(株) 富士テクノサーベイ(株)

● エネルギー分野 ●

開発調査事業

プロジェクト名	概 要	相手国の調査団受入先	調査業務受注企業名
全国送電網整備計画	長期的な送電系統の整備拡張計画を作成すること、およびスリ・ランカの送電計画立案能力の向上を目的とする。1996年度は、95年度に引き続き本格調査を実施し、最終報告書案をスリ・ランカ側に提出して説明・協議を行ったのち、スリ・ランカ側のコメントを受けて最終報告書に取りまとめ、同国政府に提出した。	セイロン電力庁	日本工営(株)

● 人的資源分野 ●

機材供与事業

案 件 名	数量	経費(千円) (支出済み額)	供 与 先	供与形態	関連事業
低所得者地域婦人会強化用機材	一式	4,339	住宅建設公益事業省住宅開発公社	WID関連特別機材	協力隊派遣

プロジェクト方式技術協力事業

プロジェクト名 期 間	各種チームの派遣		人 数 ・ 経 費 実 績			
	年 度	形 態		専 門 家 派 遣 (人)	カ ン ター パ ー ト 受 入 (人)	機 材 供 与 (千 円)
看護教育プロジェクト (当初R/D協力期間) 96.10.1~2001.9.30			95年度までの 累 計	0	0	0
	95	事前調査	96年度	新規	3	2
	95	長期調査				
	96	実施協議	継続	1	0	7,307
96	計画打合せ					

〈要請背景〉

スリ・ランカでは看護婦の絶対数が不足しており、1992年現在、1万2500人の看護婦が必要とされているなか、実際に同国において勤務しているのは9000人あまりにとどまっている（国民10万人当たり64人）。さらに、必要看護婦数は毎年1万人ずつ増加すると予想されており、人材不足の深刻化は必須である。こうした状況のなか、スリ・ランカ政府は同国の看護婦不足への対策と質の向上のために、スリジャヤワルダナプラ総合病院に隣接した敷地に年間100人の看護婦供給能力をもった看護学校を建設する内容の無償資金協力、ならびにICU、CCUなどの専門看護を対象とした技術協力をわが国に要請してきた。その後、95年8月に実施した事前調査では、同看護学校を基礎教育の向上をめざすモデルケースとして位置づけ、ほかに10校ある国立看護学校における教育の質の向上・高度化を目的とする技術協力プロジェクトとすることで合意した。

〈目標と期待される成果〉

スリ・ランカにおける看護教育のモデル校をつくること。

- (1) スリ・ランカ全体の看護教育の実態が把握できる。 (2) 学校運営管理の新しいモデルができる。 (3) 教育方法の新しいモデルが完成する。 (4) モデル的な教育環境が完成する。

〈協力活動内容〉

看護教育のモデル校づくり、国立看護学校10校のレベルアップ。

- (1) スリ・ランカ全体の看護教育のベースサーベイランスを行う。 (2) 学校運営計画を策定し、実施評価する。 (3) 学校独自のビジョンを作成する。 (4) 新しい教育法を教授する。
(5) 教材作成技術を指導する。 (6) 実習教材、必要図書を供与する。

無償資金協力事業(JICA担当分)

プロジェクト名	相手国 実施機関	調査業務 受注企業名	供与 年度	金額 (億円)	E/N 署名日	JICA実施業務	
						基本設計・簡易 機材案件調査	実施促進・ フォローアップ
スリ・ジャヤワルダナプラ大学医学部教育機材整備計画	教育・高等教育省 スリ・ジャヤワルダナプラ大学医学部	アイテック(株)	96	7.21	97.3.11	96.10 (本) 97.1 (報)	
スリ・ランカでは、医師不足解消のためスリ・ジャヤワルダナプラ大学に医学部を新設したが、実習用機材、臨床用機材が不足していることから、同医学部（15学科）に対する医療教育機材（顕微鏡、光度計、冷凍庫、遠心器、X線装置、脳波計、超音波診断装置など）の供与を行う。							